

教科等研究会（中学校特別活動部会） 令和 6 年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

互いの考えを出し合い、尊重し合いながら合意形成する特別活動
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月 14日	7名	甲佐町立 甲佐中学校	7月 1日	甲佐町立 甲佐中学校	上益城郡 生徒会 交流会 打合せ	9月 13日	嘉島町立 嘉島中学校	末竹美歩 教諭	10月 11日	益城町立 広安学校	岩崎太貴 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

特別活動の目標として「互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」が掲げられている。よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標を基にして、一人一人が役割を分担する協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

② サブテーマ

ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性、考え方、関心や意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、

自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 生徒会交流会は、学校のリーダー同士で情報交換の場、目標を共にする人たちと課題解決をする場、参加者の自己肯定感を高める場等、非常に教育効果が高い取組となっている。
- 小学校の授業を参観させてもらうことによって、中学校に入学してくる前に、身につけてきたスキルを知ることができる。また、発表の仕方など、工夫の幅を広げることができる。
- 小学校は担任の先生が1年間をかけて、話し合いの仕方などを段階的に学習させていた。中学校では、教科担任制になるので、組織として取り組むことが生徒の力をつけるためには必要だと感じた。
- 学級活動で話し合いをする際に、多くの生徒が合意を形成するために活動をすることができるように、9年間を通して共通して取り組むことが必要であると感じた。今回小学校の先生に中学校での取組などを伝えることができたので、継続することを部会で検討したい。
- 生徒会交流会に参加した生徒から、「他校の人たちと交流をする機会を他の生徒たち（各学校の委員長など）でも行うといいと思う」という意見があった。参加した生徒たちの思いなどを参考にすることができるよう来年度検討をしたい。

4 実践事例

(1) 生徒会交流会（益城町交流情報センターミナテラス）

- 1、開会行事【甲佐中学校】
- 2、実践報告【清和中学校】（各学校の参加生徒より実践発表・質疑感想発表10分）
- 3、仲間づくり活動【矢部中学校】
- 4、班別討議【御船中学校】
- 5、閉会行事【木山中学校】、感想発表【益城中学校、蘇陽中学校、嘉島中学校】

(2) 研究授業の概要

単元の目標	<p>(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。</p> <p>(2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。</p> <p>(3) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。</p>																				
単元終了時の生徒の姿	学級会の話し合いで決まったことをもとに、自分の役割を考え、全員が主体的に取り組もうとしている生徒。																				
単元を通した学習課題	合唱コンクールに向けたスローガンを達成するために、学級の課題を明確に把握し、どのような取り組みをしたらよいか具体的な対策を考える。																				
働かせる見方・考え方	よりよい学級づくりに向けた様々な問題を主体的に解決しようとするとともに、他者の考えを受け入れながら合意形成を図る。																				
生徒の実態	<p>■本時の活動にあたっての生徒の実態</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">調査内容</th> <th style="text-align: center;">そう思う</th> <th style="text-align: center;">そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話し合いの場において、自信をもって、自分の意見を言うことができますか。</td> <td style="text-align: center;">13人 (48%)</td> <td style="text-align: center;">14人 (52%)</td> </tr> <tr> <td>学級の一員として、係や委員会活動などの役割を十分果たしていると思いますか。</td> <td style="text-align: center;">24人 (89%)</td> <td style="text-align: center;">3人 (11%)</td> </tr> <tr> <td>自分は周りから認められていると思いますか。</td> <td style="text-align: center;">21人 (78%)</td> <td style="text-align: center;">6人 (22%)</td> </tr> <tr> <td>これまでの学校行事に積極的に参加しましたか。</td> <td style="text-align: center;">23人 (85%)</td> <td style="text-align: center;">4人 (15%)</td> </tr> <tr> <td>合唱をすることは好きですか。</td> <td style="text-align: center;">21人 (78%)</td> <td style="text-align: center;">6人 (22%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>■考察</p> <p>話し合いの場において、自信をもって自分の意見を言うことができない生徒が半数を超えており、自信がない生徒が多い。一方、学級の中で自分の役割を果たしている肯定的に答えた生徒の割合は約9割と高かった。また、「自分は周りから認められている」という質問にも肯定的に答えている生徒が約8割であり、自己肯定感が高い生徒が多いこ</p>			調査内容	そう思う	そう思わない	話し合いの場において、自信をもって、自分の意見を言うことができますか。	13人 (48%)	14人 (52%)	学級の一員として、係や委員会活動などの役割を十分果たしていると思いますか。	24人 (89%)	3人 (11%)	自分は周りから認められていると思いますか。	21人 (78%)	6人 (22%)	これまでの学校行事に積極的に参加しましたか。	23人 (85%)	4人 (15%)	合唱をすることは好きですか。	21人 (78%)	6人 (22%)
調査内容	そう思う	そう思わない																			
話し合いの場において、自信をもって、自分の意見を言うことができますか。	13人 (48%)	14人 (52%)																			
学級の一員として、係や委員会活動などの役割を十分果たしていると思いますか。	24人 (89%)	3人 (11%)																			
自分は周りから認められていると思いますか。	21人 (78%)	6人 (22%)																			
これまでの学校行事に積極的に参加しましたか。	23人 (85%)	4人 (15%)																			
合唱をすることは好きですか。	21人 (78%)	6人 (22%)																			

	とが分かる。 行事については、これまでの学校行事に積極的に参加した生徒の割合が約9割となっているが、合唱に対して否定的に捉えている生徒も22%いる。
指導上の留意点	○議長団を中心に事前準備を進め、生徒が主体となって運営していると実感させる。 ○議題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもって、合意形成に向けた話し合い活動に参加できるよう、事前に議題について伝え、どのような合唱コンクールにしていきたいかを考えさせる。 ○集団の形成者として、自分に何ができるか主体的に考えて意思をもって取り組むことができるよう、合唱コンクールのスローガン達成に向け、生徒自身で必要な係を考え、実践していくことで、全員が役割をもって取り組めるようにする。 ○協同的・参加的・体験的な学習の推進のために、班での話し合い活動では役割分担をしながら班での意見をまとめ、発表し、学びの共有化を図っていく。
授業者自評	これまで学級会をしたことがない学級で、本時の前に1回目の学級会、本日が2回目だった。教師が司会に声をかけながら行わないためには、経験を積み重ねさせることが必要だと感じた。学級会を重ねながら、問題を生徒同士で解決していく学級づくりをしたい。振り返りまで時間内に終わらなかったところを改善したい。 ポイント①について、すべての意見を大切にするために、似た意見をグルーピングした。多数決をしないことにこだわった。 ポイント②について、具体的なものにしたいと考え、問いかけや生徒同士の質問を通して具体的になるようにした。事前授業では具体的にならなかった。今日は具体的なものになった。 難しいと思った部分は、臨機応変に対応できる議長・副議長の育て方で、台本にないこと（予定していないこと）があると上手いかなかった。
協議より	・話し合いを具体的に進めるときは、教師から考えさせる発問をすることが必要な場合がある。学活では生徒が主役。教師が口を挟まずとも生徒同士の話し合いでどんどん深まることが理想。司会だけでなく一人一人を育てていくことが学級会の理想に近づく。 学級会の事前の話し合いが充実したときは、議長団に任せられることが多い。議長団がどんな意見が出るか、意見が出たときにどう反応するか十分に想定することが必要。 ・話し合いをするときに、コの字型の席で行うのは、誰とでも目が合うので、全員が参加している緊張感を与えるというメリットがある。しかし、配慮が必要な生徒にとって、目が合うことがマイナス面に働くこともある。 ・「具体的」にこだわった話し合いを行った。具体的に目標を決めることで、生徒も振り返りがしやすいからよいと感じた。 ・司会の生徒が「誰の意見も切らずに話し合いをまとめられたのがよかった。」と振り返っていた。先生の思いが伝わっていて共通の思いをもってできたのがよかった。 ・意見を絞り込む際、多数決以外の方法として、複数の意見を選択する前に融合・置き換えに取り組み、最後に拍手で承認する方法がある。
まとめ 清和 中学校 山本 校長 先生	・誰よりも早く拍手をしたり、あたたかい言葉かけたりしている姿に、生徒と先生のよい関係が築けていることが伝わった。 ・事前授業や台本の共有など学年部との連携もうかがえた。 ・質問に対してすぐ回答するのではなく、司会が一言はさむことも大切ではないかと思った。 ・学級会が学級経営の軸になることを理解して、各学校での取り組みを共有できた。 ・学級会の成果は今後の活動につながるようしっかりとみとりをしていくことが大切。

(3) 展開案

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 本時の議題、役割を確認する。 ①議題の確認	○議題、役割を確認する。
		【議題合唱コンクールのスローガンを達成するための具体的な行動目標を決めよう。】	
		②役割：議長、副議長、書記の紹介 ③話し合いに向けて教師より	○話し合いの流れとゴールを確認する。前回の学級会で決まったスローガンの確認も行う。

展 開	30 分	<p>2 クラスで出た意見を参考にしたり、日ごろの練習の様子を思い出したりしながら、再度自分の考えを学級会ノートに書く。 ◇時間通りに練習を始める。</p> <p>3 事前に記入しておいたワークシートを活用しながら、班ごとに行動目標を話し合う。 ◇練習には絶対に遅れない。 ◇全員で協力して練習に参加する。</p> <p>4 合唱コンクールに向けた行動目標について、班ごとに話し合った内容を発表する。 ◇練習には絶対に遅れない。 ◇全員で協力して練習に参加する。</p> <p>5 班で出た行動目標をグルーピングし、より具体的なものにすることで合意形成を図る。 ◇2分前には練習を始められるよう、タイマーを使って時間を意識するようになる。 ◇常に前向きな発言をすることで、全員が頑張れる雰囲気作りをする。</p> <p>【期待される学びの姿】 クラスメイト一人ひとりの異なる意見を尊重し、それらの意見を生かそうとしながら、発表をしたり、合意形成をしたりできている。</p>	<p>○話し合いの中での自分の役割を意識しながら活動に参加させる。</p> <p>○事前にとったアンケート結果を黒板に掲示し、クラスメイトの意見を意識しながら話し合いができるようにする。</p> <p>○抽象的な行動目標から、具体的なものにするために、「いつ・どこで・どんなふうに」などの視点を教師側から各班へ与え、考えさせるようにする。</p> <p>【具体の評価基準】 ○合唱コンクールのスローガン決めの話し合いに主体的に参加し、互いの意見の良さを評価しながら練り上げようとしている。(方法：観察)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○1, 2年生の時の合唱コンクールへの練習や本番の様子を振り返ることができるような声かけを行う。</p>
		<p>5 決まったことの確認</p> <p>【まとめ】 合唱コンクールのスローガンを達成するための具体的な行動目標 『 』</p>	
終 末	10 分	<p>6 担任の話</p> <p>7 振り返り</p> <p>8 終わりの言葉</p>	<p>○話し合いの進め方や合意形成の過程を評価する話をする。</p> <p>○次回の学級会の予告を行う。</p>

【板書計画】

